

【授業科目】 公衆衛生看護活動論Ⅲ（施策論） Public Health Nursing Activities Ⅲ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大谷 喜美江、後藤 由紀、佐藤 優子	4年次前期	選択	1	30	演習	あり	巻末記載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要/地域全体の健康レベルの向上を目指すための基本的な展開方法である地域診断および事業化・施策化について演習を通して理解する。地域の特性、環境、地域資源や力を把握し、地域の顕在的・潜在的な健康課題を総合的にアセスメントする方法、および行政の基本方針・基本計画との整合性を図りながら支援計画の立案、事業化・施策化する過程について学ぶ。事業化・施策化では予算や人事配置等の看護管理、地域住民が主体的に参画できる様な機会と場、方法やネットワークの構築、問題解決のためのシステム化、活用できる社会資源の開発等を考慮しながら行う。提案した支援のうちの1事業(健康教育)の企画書・指導案を作成する。課題に対するフィードバック方法/提出された課題について、全体の総評コメントを資料にて公開する。							
実務経験に関する授業内容	保健師の臨床経験をもつ教員が、保健師として必要な地域診断および事業化・施策化の関連知識について、演習を交えながら指導していく科目である。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、看護を実践することができる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①地域集団を対象に展開する地域診断(コミュニティ・アセスメント)の意義と技法がわかる。 ②地域診断に必要なデータ(地域の特性、環境、地域で活用できる資源等)の種類、収集方法を知り、データを活用して地域の健康状態をアセスメントすることができる。 ③地域の健康課題の抽出方法を知り、健康課題の優先順位の決定方法がわかる。 ④地域の健康課題・健康問題に添った支援計画を立案し、評価方法を含めて他者に伝えることができる。 ⑤地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善していくことの意義を理解することができる。							
時間外学習に必要な内容・時間	第1回～3回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく(各30分) 第4回～5回事前事後学習：事前に事例地域の情報収集内容を検討し、結果とまとめる(60分) 第6回～9回事前事後学習：指定の教科書を事前に読み、担当地域の概要を把握し健康課題と支援を考える。(60分) 第10回事前事後学習：指定の資料を事前に読む。講義内容を参考に担当地域の健康教育案を考える。 第11回～第13回事前事後学習：本授業および健康教育論の授業内容を振り返り準備しておく(60分) 第14～15回事前事後学習：発表内容を振り返り、改善点を考えておく(30分)、これまでの保健師課程の授業内容を振り返る(120分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回 地域診断と事業化・施策化の概要・公衆衛生看護管理 第2回 地域診断と事業化・施策化①地域診断の過程・展開方法(地区踏査含む) 第3回 地域診断と事業化・施策化②計画に基づく施策・事業化の実際/地区踏査演習ガイダンス 第4回 地区踏査演習① 地区踏査・住民インタビューの実践 第5回 地区踏査演習② 地区踏査・住民インタビューの振り返り 第6回 自治体事例を用いた地域診断演習：事例演習ガイダンス、既存資料の情報収集 第7回 自治体事例を用いた地域診断演習：地区踏査計画の立案と追加の情報収集 第8回 自治体事例を用いた地域診断演習：アセスメントと健康課題の抽出 第9回 自治体事例を用いた地域診断演習：優先順位の検討と支援計画の立案 第10回 保健師による健康課題解決に向けた地域診断・健康教育の実際 第11回 自治体事例を用いた健康教育演習：対象者のアセスメントと目的・目標の検討 第12回 自治体事例を用いた健康教育演習：企画書・指導案の作成 第13回 自治体事例を用いた健康教育演習：企画書・指導案の修正、発表準備 第14回 自治体事例を用いた地域診断・健康教育の発表① 発表及び意見交換 第15回 自治体事例を用いた地域診断・健康教育の発表② 今後の課題検討・まとめ						大谷 大谷 大谷 全員 全員 全員 全員 全員 大谷 全員 全員 全員 全員 全員	
評価方法 評価基準	参加態度(10%)、個人・グループ課題内容(30%)、定期試験(60%)で総合的に評価する。							
教科書	1)標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」医学書院(3年次「公衆衛生看護学基礎実習」で購入したもの) 2)地域看護アセスメントガイド 医歯薬出版 3)標準保健師講座2「公衆衛生看護技術」医学書院(2年次後学期「公衆衛生看護学活動論Ⅰ」で購入したもの)				参考書等	その他、講義の中で紹介する。		
学生への 助言等	授業内容は、保健師が特に必要とする基本的な公衆衛生看護技術の演習科目です。これまでの保健師課程の授業内容を振り返り、4年生の公衆衛生看護学展開実習につなげてください。演習では、グループメンバー全員が協力し合い、主体的・積極的な学習態度を期待します。							